

銚子七中
学校だより

坂東太郎

COUNT DOWN 閉校まであと 386日

令和2年3月10日
第23号

校長式辞



さわやかな春の光が、この体育館をやさしく包んでくれています。

今日は、令和2年3月10日、皆さんの晴れの舞台である「卒業式」です。第七中学校を巣立っていく、47名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。皆様もご経験が
おありのように、中学生時代は人間の一生の中でも、心も体も目覚ましい成長を遂げる時期で
あるとともに思春期と言われる不安定な時期でもあります。本校入学の日から3年間、さぞか
し様々なご苦労があったことと存じます。それだけに立派に成長し卒業証書を手にしたわが子
の姿をご覧になり、お喜びもひとしおのことと推察いたします。心からお祝い申し上げます。

さて、今日は皆さんが義務教育9年間の全課程を終える「晴れの日」です。実におめでたい、
晴れ晴れしい日です。人生の中で、このような日はそう何度もあるものではありません。そし
て、主役は卒業生の皆さん一人ひとりです。そんなすばらしい日をあなたたちと一緒に迎えら
れたことをとてもうれしく思います。

しかしながら、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、大変簡素な形での卒業
式となってしまいました。主催をする私たちにとっては、とても辛く、残念でなりません。ま
た、見送る立場の1、2年生も、君たちの晴れの姿を見ることができず、きっと寂しく感じて
いることでしょう。そしてそれ以上に、主役である君たちはもっと落胆していることと思いま
す。でも、今日のために君たちを心から祝福したい、少しでも通常の卒業式に近づけたいとい
う強い願いから、心を込めて私たち職員だけで会場準備をさせてもらいました。どうか私たち
の真心を受け取ってもらい、重厚な式と感じ取ってもらえれば嬉しく思います。

さて、本日は卒業という人生の大切な一つの節目です。この時にあたり、皆さんに心の底で
噛み締めてほしいことを一つだけ話します。それは私の好きなことわざのことですので、ぜひ
皆さんも心に刻んでください。

「艱難汝（かんなんなんじ）を至（たま）にす」

艱難とは、「困難に出会い、苦しみ悩むこと」で、汝とは「あなた」のことです。つまり、「困
難に出会って苦しむことで、あなたは立派な人に成長する」という意味です。

似たようなことわざや言葉は、他にもたくさんあります。

「逆境は、青年にとって光輝ある機会である」
「若い時の苦勞は買ってでもせよ」 などで。

また、逆に育てる側からも、

「かわいい子には旅をさせよ」
「獅子はわが子を千尋の谷に突き落とす」 などがあります。



たくさんあるということは、それだけ大切なことだということです。私たち人間の一生は短くありません。長い人生ですから、生きていけば嬉しいことや楽しいことがたくさんあります。しかし、逆に悲しいことや苦しいこともあります。そういう悲しいことや苦しいこと、壁にぶつかったときに、負けずに立ち向かっていく意思や、実際に乗り越えようと努力することが、とても大切なことなのです。そうして、立ち向かったという経験が、次にピンチに立たされた時にうろたえたり、変に迷ったり、ふてくされたりせずに、堂々とぶつかっていく自分を育ててくれるのです。そして、その悲しみや苦しみ……壁が大きければ大きいほど、高ければ高いほどその人を強くしてくれます。大きな苦しみ乗り越えたことのあるAさんと、そういう経験のないBさん。二人に同じ困難が降りかかったとき、Bさんは逃げ出したくなるほど苦しいと感じるかもしれませんが、Aさんは大したことはないと思うかもしれません。皆さんが、これから、苦しいな、辛いなと思ったとき、「艱難汝を玉にす」ということわざを思い出して、乗り越えれば強くなれると信じて、立ち向かってください。ただ、一つだけ付け加えておきます。心から苦しいとき、辛いとき、すごく困ったときに、いつでも自分一人で立ち向かえと言っているではありません。世の中には、自分だけでは解決できないことも起こります。そういう時には、迷わず、お父さんやお母さんやおうちの方、先生や友達、先輩に相談してください。ですから、自分の周りに相談できる人、信頼できる人をつくっておくことです。それもまた、皆さんにとって、とても大切なことです。

「艱難汝（かんなんなんじ）を玉（たま）にす」

まさにこのような時だからこそ、難局を乗り切るためにも卒業生の皆さんには座右の銘として、またこの先の人生の指針として、ぜひ心に深く刻んでおいてください。

結びにあたり、ご多忙の中、ご臨席を賜りました保護者の皆様に重ねてお礼を申し上げますと共に、今後とも本校教育に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます、併せて、巣立っていく47名の卒業生の限りない前途に、幸多きことを願い、式辞といたします。

令和2年 3月10日

銚子市立第七中学校 校長 小山 克己

